

園のおたより



第 6 号

令和 5 年 9 月

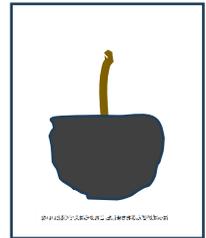
埼玉大学教育学部附属幼稚園

水やり

園長 関 由紀子

今年の夏は本当に暑かった。夏季休暇中、この異常な暑さのせいで、我が家の人間はだらだらぐったり、花壇の草木はしなびて干からびていました。「幼稚園の芝生、大丈夫かしら」と心配したのですが、きっと保護者の皆様による「水やり」のお蔭で大丈夫に違いないと信じていました（園児と保護者の皆さま、猛暑の中の水やり、心より感謝申し上げます）。

水やりの大切さで思い出す事件があります。それは私の娘が小学生の時です。野菜を育て観察する授業のために、ピーマンの苗を買いました。ちょうど私の出張期間と重なったため、学校に持参する1週間ほど前に購入し、水やりを忘れないようにと台所の水道の横に置きました。夫と娘に「毎日水をあげるんだよ」と言い残して家を出たのですが、ある日娘からLINEで「ピーマン枯れた。Aちゃんママに苗を買ってもらった」と連絡が来ました。水道わきに置いたのにそれでも水やりを忘れたのかと愕然としたのですが、3か月後、更に衝撃を受けました。学期末のために持ち帰ってきたピーマンの成長絵日記の最初のページには、黒の苗ポットから生えた茶色の茎、下には「はっばがぜんぶおちました。これからはえてくるといいな」とのコメントがありました。葉っぱがすべて落ちて茎だけになった苗を学校に持っていき、呑気に写生し、これからの成長を望んでいる娘は一体どうしたものか。それに比べてAちゃんは、事の重大さを理解し、ママに伝え、新しい苗を娘のために購入してくれたのでした。



保護者とともに暑い最中に毎日水やりを実際に行っている園児たちは、きっと心と体の両方で「水やり」の意味と重要性を体得しているのだと思います。以前土の専門家（教育学部生活創造講座ものづくりと情報・技術分野の大学院生さん）が土作りについて3組で講義したとき、3組さんは良い土に必要な要素の一つは「水」と即答していました。水道の脇で日に日に弱っていくピーマンを横目に「水やり」しなかった娘とは大違いだなあ、ととても感心したことを思い出しました。

私はこの苗事件以降、留守にするときは今でも必ず夫と娘に毎日LINEで「ゴミ捨て、メダカの餌やり、花壇の水やり」と伝えるようにしています。自主的に「水やり」が出来るようになることよりも、植物が枯れないようにすることを優先する日々です。

こどもの育ち応援センター

埼玉大学では、2024年4月より附属幼稚園内に『国立大学法人埼玉大学教育学部附属こどもの育ち応援センター』を開設することとなりました。このセンターの目的は、「乳幼児教育及び幼稚園教育の基本理念に基づき、学内外の関係諸機関との連携のもとに、乳幼児の育ちに関わる保護者、保育・教育者に対する情報提供及び相談支援を行い、乳幼児のウェルビーイングの保障に寄与すること」と規定する予定です。

今年4月に「こども基本法」が施行されましたが、その第3条には、こども施策の基本理念の一つとして「全てのこどもについて、その最善の利益が優先して考慮されること」と挙げられています。附属幼稚園では、「子どもの『自らのびる力』を育てる」ことを教育目標として位置付けて、こどもの育ちを核としていきたいと常に考えています。今回新たなセンターの開設にあたり、どのような名称にするかをいろいろと検討しました。「子育て支援センター」という施設が地域にも複数整備されていますが、「こどもの育ち」を核にして、それを応援していく姿勢での活動を展開する意味を込めて、『こどもの育ち応援センター』という名称になりました。

具体的には、附属幼稚園の特色の一つである大学・学部の附属施設であるという点を新たなセンターでも生かし、大学・学部の様々な専門家（大学教員）やこどもの育ちに関わる職を目指している学生さんたちと連携しながら、人と人をつなぐ拠点としての役割を果たしていきたいと考えています。活動内容は、主に地域の子育て家庭の方を対象としたものと、地域の園や学校の先生を対象としたものを計画しています。子育て家庭の方へは、昨年度から開催の「子育ておはなし会」を基盤にしていき、先生方へは、既に開催の「公開保育研究会」に加え、健康医療研修会なども加えていく予定です。また、いずれも、動画による情報提供などを新たな活動として準備しているところです。「幼稚園」として在園しているこどもたちの育ちに直接関わること、「こどもの育ち応援センター」として地域の保護者の方や先生方を通してその先にいるこどもたちの育ちに関わること、それぞれの役割を大切に努めていきたいと思えます。

こどもの育ち応援センターの表札看板を正門に設置する予定ですが、そのデザインは、附属中学校の美術部の生徒さんをお願いすることにしました。新しいセンターを中学生がどのようにイメージしてデザインしてくれるのか、とても楽しみにしています。

(副園長)

クラスだより



1くみ

「よーい、どん！」

夏休みが明けた始業式の日には、周りの友達や先生に進んで声をかけたり、笑顔で挨拶したりする姿がありました。夏のいろいろな思い出話に花を咲かせる様子から、充実した初めての長期休業だったことが伺えました。9月は暑い日が続き、なかなか思うように戸外に出て活動することができない日が多かったですが、涼しい日や、早い時間帯に園庭に出て過ごし、いろいろな体を動かす遊びに取り組んでいます。夏休みを経て身体も心も一回り大きくなり、活発に体を動かす人が増えています。

クラスのみんなで、かけっこをした日がありました。ビールケースをスタート台にして、「よーい、どん！」で走り出しました。走り終わると、「もう一回！」と言って何度もやってみようとする姿がありました。園庭を真っ直ぐに走り抜ける時に感じる芝生や、風を切る感触はとても気持ちがいいです。降園の前には、「また走りたい」と話す人がいました。次の日には「今何キロくらいだったかな?」「どうやったらもっと速く走れるかな?」と繰り返し走る姿がありました。

玉入れは、子ども会で初めて取り組んでから、普段の遊びの中でも、赤い玉をりんごに見立て、コブシの木に籠を吊り下げてやってみました。最初はなかなかうまく入りませんが、籠に近づいたり離れたり、投げ方をいろいろ試したりしながら、次第に籠に玉が入るようになりました。

スポーツの秋とも言いますが、これからの季節、活動しやすい気候になる中で、いろいろな動きを遊びの中で体験していくことも大切にしていきたいと思っています。





2くみ



「一人の興味がみんなへ広がる」

2組の花壇には、自然に生えてきた赤紫蘇があります。夏休み明けから、毎日紫蘇の葉を採り、大事そうに握ったり匂いを嗅いだりしながら過ごすAさんの姿がありました。どうして紫蘇を採っているのか聞いてみると、家で読んだ『ピヨピヨおばあちゃんのうち』の絵本に出てきた紫蘇ジュースを自分も作ってみたいという思いを教えてくださいました。そこで、花壇の赤紫蘇を使って「紫蘇ジュース」を作ってみることにしました。まず、絵本に描いてある材料を集め、紫蘇を煮出してみることに。しかし、できたものは絵本のような鮮やかな赤紫色になりません。原因を探している時、作り方を知っていた吉澤先生に色を変える方法を教えてもらい、なんとか色を変えることができました。やっとの思いで完成した紫蘇ジュースを口に入れると、「お水みたいだけどおいしい」と満足そうな様子でした。

Aさんが飲み終わった後、鍋にはまだ少しだけ紫蘇ジュースが残っていました。2組のみんなもAさんが紫蘇ジュースを作っていたことが気になっていたことを伝えると「みんなも飲んでいいよ」と、余ったものは2組のみんなで飲むことになりました。材料や作り方をみんなに話し、さっそく飲んでみることに。「おいしい！もっと飲みたい！」という人もいれば、「変なおいがる」「おいしくない」という人もいて感想はそれぞれでしたが、Aさんの興味から、2組のみんなが「紫蘇」に触れる機会をもつことができました。そこをきっかけに、花壇の紫蘇やローズマリーに目を向けて自分も何かを作りたいと思う人、花壇のヒマワリの変化に気付く、ヒマワリの種を使ってお店屋さんを開こうと考える人など、自然物を使って遊ぶことへの興味が広がっています。

紫蘇ジュースのエピソードは一例ですが、2組の一人一人が「やってみたい」をたくさんもっています。その「やってみたい」というそれぞれの気持ちを実現する中で、その興味が学級の友達とも共有していくことで、友達から得た新たな興味からそれぞれの遊びの世界が広がっていくようこれからも過ごしていきたいと思います。



3 くり

「おもしろいをつくる人たち」

3組さんが6月に蒔いた大豆の種が、枝豆の形になりました。毎日のように大きくなった枝豆を見つけては、友達や先生に気付いたことを言葉にしながら、喜んだり、期待感をもって水やりをしたりしています。「ええ！大豆が枝豆になってる！」と驚いていた人もいました。おうちの方がいつもお弁当に入れてくれる大好きな枝豆は、大豆だったのだという繋がりを知る機会にもなったようです。10月には枝豆パーティーをしようと、わくわくしています。

2学期もまた、栽培からいろいろな当番活動が始まりました。「毎日畑の水やりをするのは大変だ」「暑いから枝豆だって水が欲しいよね」「そうだ、お当番って1学期していたじゃない。またやろうよ」そのような会話から、5つのチームが毎日活動できるように、5つのことをみんなで考えました。

『お弁当』の当番は、テーブルを拭くことの他に、花を飾る、テーブルの並べ方を話し合って決めることも加わりました。花火、まんまるおつきさま、みかづき、かぼちゃ・・・いろいろな形に並べて楽しんでいます。

『床をピカピカ』当番は、ミニほうきと、ちりとりできれいにしたり、雑巾をかけたりしています。雑巾でドンじゃんけんをすることも、おもしろさの一つのようです。

『靴箱ピカピカ当番』は、友達や自分の靴を別の場所に動かして、丁寧に拭いています。全部拭き終わったら靴を戻すので、パズルのように夢中になって戻しています。

『畑のお世話』の当番は、栽培している枝豆や藍やサツマイモの様子を見たり、水やりをしたりしています。「お花が咲いたよ」「葉っぱが食べられているよ」と教えてくれます。

『お助け』当番は、まず3組に手を貸してほしいチームがいたらお助けが参上です。そうでない時には1組や2組に参上して、靴箱やテラスをきれいにしています。誰かの喜ぶ顔を見ると嬉しい気持ちになるようです。

みんなで考えたことを、単にルーティンとして取り組むだけでなく、それぞれがもっとおもしろくしようとしています。今をいかに楽しむか・・・さすがですね。